

# 平成25年度「電波の日・情報通信月間」記念式典を開催



式辞を述べる齊藤北陸総合通信局長

総務省北陸総合通信局(局長 齊藤 一雅)及び北陸情報通信協議会(会長 永原 功 北陸経済連合会会長)は、平成25年6月3日(月)午後2時から、ホテル日航金沢において、関係者約150名にご列席いただき、平成25年度「電波の日・情報通信月間」記念式典を開催しました。

はじめに、齊藤局長が「工学分野のノーベル賞と称される『チャールズ・スターク・ドレイパー賞』を受賞された北陸出身の金沢工業大学奥村善久名誉教授の栄誉を引き合いに、今後も北陸から情報通信の発展に貢献する人や企業が沢山生まれてほしい」と式辞で述べた後、永原会長が「ICTをより積極的に活用することによって、人口の減少や高齢化、医師不足、地域経済の疲弊など様々な地域課題の解決が期待される」と挨拶しました。

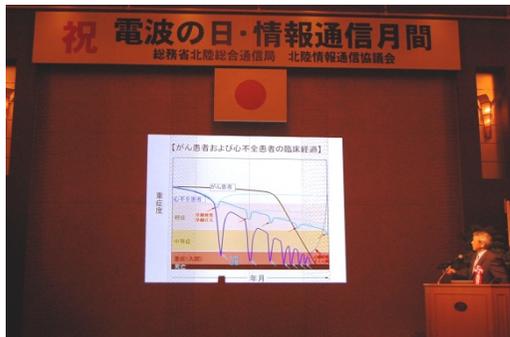
引き続き、電波の利用や情報通信の発展に功績のあった16個人9団体に対して、北陸総合通信局長及び北陸情報通信協議会長から表彰状の授与を行いました。(受賞者及び功績は報道資料を参照、URL <http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokuriku/press/2013/pre130603.html>)



永原北陸情報通信協議会長からの表彰

表彰状の授与に引き続き、「受賞者による講演」のセッションでは、金沢大学山越憲一名誉教授が開発された、“自宅を人間ドックに変え、普段の生活の中で病気を予防する生体情報モニタリングシステム”が紹介され、それに関連して、射水市民病院の麻野井英次院長から、同システムを導入して開発された遠隔(在宅)医療システム“先進的 ICT 遠隔医療システム(IMIZUNO-HOME)”の開発・運用の経緯、現状と、その運用を通じて明らかになった、重症心不全患者の症状悪化の予兆をとらえる新たな指標(呼吸安定性指標)についてのご講演をいただきました

引き続き行われた「最近のトピックス」のセッションでは、北陸総合通信局が昨年5月からYouTubeを利用して配信している手作り制作の広報チャンネル「北陸ICTチャンネル」の32本の番組の中から、『橘慶一郎総務大臣政務官から北陸への応援メッセージ』など厳選した5番組を上映しました。



麻野井射水市民病院長のご講演

問い合わせ先:総務部総務課 076-233-4410